

## 【ソーシャルメディアと研究】

### ソーシャルメディアがつなぐ／変える研究と健康

#### Twitter を例に考える

中山和弘 聖路加看護大学教授

『看護研究』（医学書院）Vol.44 No.1, P.86-93, 2011.

#### KEY WORDS

ヘルスリテラシー, ヘルスコミュニケーション, 看護情報学, インターネット, つながり

#### Twitter を始めてから起こったこと

最初に Twitter のアカウント登録をしたのは、2009（平成 21）年の 7 月でしたが、はじめは全く意味がわからず、そのままにしてありました。次第にどのようなものが、関連の記事を見たり聞いたりでわかりはじめていたので、2010（平成 22）年前期の大学院の講義「看護情報学特論 I」で

紹介しようと、シラバスに入れました。しかし、院生に何に役立つのか、どう使うのかと詳しく突っ込まれると、どうにもわからないことが出てきてしまいました。これは実際に使って教えられるようにしないといけないと、授業の途中の 6 月に始めたわけです。

そして使いはじめて何が起こったか。この原稿を書くことになったことがまず 1 つです。運営しているサイト「ナースに役立つ種類のサイトとは？— Nurse 's SOUL」（<http://www.nursessoul.info/>）のトップ画面には、

図 1 Twitter の画面



顔写真とともに **Twitter** の画面が取り込んであります。この **Twitter** がきっかけで、本原稿の執筆を依頼されました。

**Twitter** は図 1 のような画面になっています。これは私のアカウント名 **nakayamakazhiro** で、**Twitter** のサイトを見ているものです (<http://twitter.com/nakayamakazhiro>)。1 つひとつの文章が「ツイート (tweet ; さえずりの意味)」あるいは「つぶやき」と呼ばれています。日常的なコミュニケーションに使っている人もいるかもしれませんが、私は主として研究のために使っています。そのため研究への取り組み方に変化が起こってきています。それは研究に関する情報の共有と、同じ関心をもつ人との出会いの 2 つです。

## 登録して使ってみる

もし、使ったことのない方でしたら、百聞は一見にしかず。次のサイトにつなげて接続してください。⇒<http://twitter.com/>

すでに使っている方は、次節「フォローが主な仕事」に進んでください。では早速登録してみましょう。画面右側の「登録する」のボタンを押すと、「**Twitter** に参加しましょう」という画面に変わるので、「姓名 (公開されますので、実名でなくてもいいです)」「ユーザー名」「パスワード」「メールアドレス」を入力して、「アカウントを作成する」のボタンを押すだけです。

そのあと、認証のための画像の文字を打ち込んで次に進みます。「興味分野」ではとりあえず「次のステップ」, 「友だち」でも「インポートをスキップ」にします (あとからいつでもできます)。そして、「最初の 10 ユーザーをフォロー」のところで、空欄に「中山和弘」と入れて検索すれば、先の図 1 のような画面が出てきますので、「フォローする」のボタンを押してください。それから画面上の「ホーム」のボタンを押せば、ツイートをみることができます。そこで、図 1 にある写真右の「**nakayamakazhiro**」という文字をクリックして、右の画面に出る数字の下 (たぶん 1300 番台) の「フォローしている」を押して下さい。

## フォローが主な仕事

**Twitter** は、人のツイートをフォローすることが中心的な機能です。フォローとは、いろいろな人のツイートを自分のサイトに取り込んで読むことを意味します。自分は全くツイートしなくても問題はありません。私はいまや 1300 以上もの人をフォローしていますが、もちろん最初は 1 件からでした (南アフリカでワールドカップが行なわれているときだったので日本サッカー協会にしました。その後は、オバマ大統領, 鳩山元総理, 勝間和代, 蓮舫, 山本一太などなど……)。それらを全部見てもらえれば、どれだけ貴重な情報があるかということがわかると思いますが、大変なので、看護に関連したものをいくつか紹介してみます (表)。

表 Twitter のアカウントをもつ看護関連の団体・組織など例

団体・組織	American Nurse Association、Sigma Theta Tau International, American Association of Critical-Care Nurses、American Academy of Nurse Practitioners, Oncology Nursing Society, American College of Nurse-Midwives, American Academy of Ambulatory Care Nursing, Academy of Medical-Surgical Nurse, Interdisciplinary Nursing Quality Research Initiative, Association of Women’s Health, Obstetric and Neonatal Nurses , Emergency Nurses Association American Medical Association、American Cancer Society American Red Cross, United Nations、UNICEF, 日本精神科看護技術協会
病院	Mayo Clinic, Johns Hopkins Medicine, University of Texas M.D. Anderson Cancer Center 他多数、日本でもあり
雑誌	American Journal of Nursing, Advances in Nursing Science, Journal of Clinical Nursing, Nurse Researcher, Pediatric Nursing, American Journal for Nurse Practitioners, Holistic Nursing Practice, Journal of Interprofessional Care, Journal of Nursing Education, American Nurse Today, Nursing Times, Future of Nursing, Nursing Standard, ADVANCE for Nurses, Scrubs Magazine, British Medical Journal, Lancet, New England Journal of Medicine, Cochrane Collaboration, Nature, 医学界新聞、看護教育、など
大学	School of Nursing では Johns Hopkins, Kansas, Penn, UCLA, Duke, Arizona State など, Harvard medical school, 文教大学, 東京都市大学, 聖路加看護大学看護ネット
政府・行政、研究機関	WHO, NIH, CDC, NCI, FDA, アメリカ厚生省 (HHS)、アメリカ国立医学図書館 (NLM)、厚生労働省、イギリス NHS

また、表にはあげませんでした。国内外の新聞社、通信社、放送局などのメディアはほとんどすべてでしょう。医療に関する情報をつぶやいているものもかなりあります。これらのアカウントは、私の **Twitter** で「リスト」と呼ばれる一覧に登録してあります。「nursing」や「news」などを見てみてください。これらのリストをフォローすることもできます。また、自分の関心と共通する人を見つけたら、その人がまた誰をフォローしているかをみると、掘り出し物が見つかるかもしれません。

## 備忘録とその共有としての活用法

このように、たくさんの健康関連の情報が得られる上に、それらについてさらにコメントを付けてツイートしたものも多くあります。リツイート（retweet；RT）といいます。アカウントで圧倒的に多いのは、もちろん個人のもので、他の人のツイートに対して、膨大なコメントをつぶやいています。情報やデータに評価が付け加わったものになっているわけです。そして、それをフォローし合うことで、新しい発見がたくさん得られます。

それらを参考にしつつ、読んで面白かったもの、読んだら面白そうなもの、あとで読みたいものなどについてツイートしておくわけです（全部保存して検索できるようにするために「twilog」といったソフトもあるので便利です）。お気に入り、ブックマークのようなもので、備忘録すなわちメモ代わりにしていると言ってもよいと思います。それを自分だけでなく、多くの人に共有できるようにしているわけです。「こんな面白そうな調査結果や新しい研究への取り組みがありますよ」と紹介するわけです。

他にも、会議で感じたこと、授業で話したこと、学生の反応、研究会や学会の報告や感想などもツイートしています。学会などは、参加できなかった人のためにも現地で実況をしたりできます。学会会場も複数あると1つしか聞けないわけですから、他の会場がどうだったかも書けます。

## Twitterをはじめとしたソーシャルメディアとは何か

このような Twitter をはじめとした、ソーシャルメディアの利用者が急増したために、2010年は「ソーシャルメディア元年」と言われました。日本では Twitter が急成長しましたが、海外では、SNSの「Facebook」—SNS (social networking service) とは、人と人とのつながりを促進・サポートする、主にコミュニケーション型の web サイトの意。mixi など。Facebook は、なかでも現在、世界最大の SNS。もともと、ハーバード大学の学生が、学内の交流を促進するためにつくられた—が急速に普及して、Google などの検索エンジンと変わらないほどの利用率になってきていることが大きな要因です。米国では、2009年の8月時点で、成人のネットユーザの46%が SNS に登録し、そ

図2 米国公衆衛生学会 (APHA) にみられるソーシャルメディア

Social Media

With information you can access when and where you want it, APHA offers a variety of ways for you to stay connected online.

	<b>Twitter</b> Public Health <a href="#">Get Ready News</a> <a href="#">National Public Health Week</a> <a href="#">APHA Annual Meeting</a> <a href="#">The Nation's Health</a>
	<b>Become an APHA Facebook Fan</b> Must be a Facebook member to <a href="#">join</a> .
	<b>APHA is LinkedIn</b>
	<b>Blogs</b> Get Ready - <a href="#">Visit blog</a> or <a href="#">via e-mail</a> Annual Meeting - <a href="#">Visit blog</a> or <a href="#">via e-mail</a>
	<b>APHA YouTube</b>
	<b>Flickr</b> <a href="#">APHA Flickr</a> <a href="#">Share Your Photos</a>
	<b>Podcasts</b>
	<b>Foursquare</b> <i>Will you be our next Mayor?</i>
	<b>e-Newsletters</b> <a href="#">Subscribe and stay informed</a>
	<b>RSS Feeds</b> Annual Meeting: <a href="#">Blog feed</a> , <a href="#">Twitter feed</a> Public Health <a href="#">CareerMart</a> Public Health: <a href="#">RSS feed</a>

のうち 73%が Facebook にアカウントをもっています。米国の代表的なビジネス誌『フォーチュン』の選ぶ「最も働きがいのある企業」100 社が、顧客のために Twitter, YouTube, Facebook, ブログのうち 1 つでも利用している割合は 79%, 全部の利用は 20%です。

健康や医療関連を見てみると、米国の「Best Hospitals 2010—2011」での優秀 14 病院のうち 13 病院が、リスト入りした 152 病院のうち 78%が Twitter, Facebook, YouTube, ブログのどれかを利用しています。海外の学会のホームページでも、これらソーシャルメディアのロゴが目立つようになってきています。米国公衆衛生学会のトップページには「social media」というメニューがあり、クリックすると図 2 のようにずらっとロゴが並びます。

これらのソーシャルメディアと呼ばれているものは、何なのでしょう。それは、インターネットに接続した利用者が、そこで情報を発信し、つくっていくメディアのことです。そこでは、「ソーシャル」は人々をつなぐという意味であり、「メディア」は、コミュニケーションや会話の場です。したがって、一口にソーシャルメディアといっても、その種類は多いです (図 3)。

ここ数年の日本の動向として、「掲示板」以外のほとんどで利用率が上昇しています。これらの利用率はどのくらいなのでしょう。ネットレイティングス社による家庭のパソコンからのインターネット視聴率の調査では、ソーシャルメディア全体で 74%, ブログが 61.7%, SNS (ここに Twitter を含む) 29.6%, 掲示板 34.0%, 動画共有サイト 48.2%, Q & A サイト 46.3% となっています (ネットレイティングス

図 3 ソーシャルメディアの種類



株式会社, 2010)。ニールセンの調査によると、2010 年 11 月現在で Twitter の国内利用者数は 1244 万人 (実質は 1600 万人と推定) で、インターネット人口に対する普及率は 20% を超えています。国内でトップの位置を占めてきた mixi に、現在では訪問者数、利用者数ともに上回っていますが、Facebook の伸びも大きくなっています (In the loop, 2010)。

また、その利用目的については、総務省の『平成 22 年版 情報通信白書』によると、そ

ここで実現したことで「知りたい情報を探すことができた」が最も高い割合を占めています。このなかで、ブログ、マイクロブログ（Twitter など）では、「オンライン上のコミュニケーションが促進された」という回答が多くなっています。特にブログ、SNS においては、「新たな絆が生まれた」という回答が約 20%を占める結果で、年齢が高くなるほど「絆」を再生する効果が高いという結果になっています。

ソーシャルメディアは人を遠ざけるものではなく、つながるものとして利用されていると言ってよいでしょう。それでも、これらのなかでの違いをあえて言うのであれば、評論家の佐々木俊尚氏（著書『本当に使えるウェブサイトのすごい仕組み』など多数）が Twitter 上で「ブログは講演、SNS は内輪の飲み会、Twitter は立食パーティ」とツイートしています。いずれにしても人と人との出会いの場であることは間違いありません。

## 米国の保健医療領域でのソーシャルメディアの活用

保健医療領域では、そのような人と人との出会いやつながりをつくりだす仕組みを、どのように活用していけばよいのでしょうか。日本の総務省の 2005 (平成 17) 年の調査では、健康情報の入手先としてインターネットが 62.9%でトップにあり、5 年経った現在ではさらに増加していることが予想されます。米国でも、成人の 61%が健康情報をネットで探していて、医師の受診前では 75%、受診後でも 70%がネットを見ているといます。ネットで情報を探す患者は「e-patient」と呼ばれています。そのうち 41%の人は、他の人のコメントや体験談などを読んでいます。“ちょうどいまの私のような誰か” (“just-in-time someone-like-me”) の話です。そのとき他の人はどのように意思決定したのかを知りたいのです (Fox&Jones, 2009)。

そこで積極的に患者同士を結びつけるのが、オンラインコミュニティです。例えば「Patients

LikeMe」というサイトがよく知られています。ALS や多発性硬化症やてんかんなど、患者数が少なかったり難治性疾患だったりする場合は特に情報が得られにくいので、お互いの症状などの情報を共有することが貴重な役割を果たします。また、医師による遠隔医療への利用もあります。それだけでなく、看護師が Facebook で友人の子どもの写真を見て、眼の腫瘍に気がつき命を救ったとか、意識不明の患者の既往歴が SNS で判明して救命できたなどという話もあります(ちなみに私の Twitter ではこのニュースをツイートしています)。

健康をめぐる意思決定や行動では、保健行動理論から見ても他者の影響は少なくありません。ヘルスプロモーションの分野においても、ソーシャルメディアは期待の大きいものです。米国の最新の健康政策「Healthy People 2020」でも、「Health Communication and Health IT」は大きな柱です。ここでは、健康情報をあらゆる人に提供するために、ソーシャルメディアが中心的な役割を占めています。「肥満は伝染する」という研究で有名になった、ハーバード大学の医療社会学者クリスタキスも、つながりによってライフスタイル

が伝染していることを、人のネットワークのデータから明らかにしています（クリスタキス&ファウラー，2010）。

さらに、地球上の位置情報である GPS を活用したものもあります。日本でも、Twitter で風邪の症状をツイートしている人のデータを集めて、どこで風邪が流行しているかをみる「カゼミル」というものがあります。このような使われ方は今後、幅広く広がっていく可能性があります。

## ソーシャルメディアでつくる研究のつながりと健康のつながり

私の Twitter は、現在では 1000 人以上にフォローされていますが（最初は日本サッカー協会のリフォロー）、印象的な出会いもあります。

自分の関心のある論文やニュース記事などをツイートしているのですが、それをどのように集めているかという点、キーワード検索です。便利なソフトがいくつもあって、「HootSuite」というソーシャルメディア用のものを使っています。キーワードを設定しておけば、それが含まれているツイートをリアルタイムで順次表示してくれるのです。「health promotion」「health literacy」「health communication」などのキーワードで検索しています。ツイートはこれらの関連文献や記事になるので、どんなことをテーマとして考えているのかがよくわかるのです。同じ関心をもつ人がコメントを寄せてくれたりメールをくれたりして、何人もの大学院生や大学院の受験を考えている人、大学教員などと実際に会いました。そして、そのなかには大学院を受験して来年度から入学する人もいます。

また、そこで出会った人たちとの「ヘルスコンシューマーのための意思決定支援研究会」も立ち上がりました。患者や家族、市民の健康や医療の関わる意思決定を支援するための研究会（メンバーは大学教員、院生、医療コーディネーター、ヘルスコミュニケーションの会社の方）です。研究テーマが、ヘルスリテラシー（健康情報を探し、理解し、活用して QOL のために適切な意思決定ができること）を中心としているので、意思決定支援も大きく関わります。

ヘルスリテラシーは、いまや WHO をはじめ世界的な健康政策の大きな柱です。米国も 2010 年に、その向上のためのアクションプランを示したばかりです。誰もがわかりやすい健康や医療の情報を得られるような活動が展開されています。発展途上国でも携帯電話が急速に普及していることで、それを利用したモバイルヘルスは大きな流れです。どういう人とどういうメディアでコミュニケーションをとればいいのか—それを考えるにはマーケティングの考え方も必要です。米国の CDC（疾病予防管理センター）には、ヘルスマーケティングの部門もできていて、ソーシャルメディアの活用が研究されています。

Health2.0（後述）、Medicine2.0 といった動向もあります。ソーシャルメディアの活用によるヘルスリテラシーの向上を支援し合ったり、医師や看護師などの専門家も学び合う、健康ビジネスや研究の流れです。先に紹介した、患者が参加してデータを公開して共有す



る「PatientLikeMe」がその代表的なものです。日本では、2万以上の闘病ブログを集めた「TOBYO」が代表的です。

なぜ2.0なのかというと、一方向的だった以前のウェブの世界よりバージョンアップしたことを示す意味で、ソーシャルメディアは、ウェブ2.0とも呼ばれるからです（ウェブ3.0という言葉も出てきているのですが）。誰もが参加して学び合うという意味では、eラーニング2.0というものもあって、それがソーシャルメディアの登場によって、ソーシャルラーニングと呼ばれるようになっています。例えば、統計学の授業を大学院で行なっていますが、ブログに教材をアップして皆に質問のコメントを書いてもらい、それに答えるというスタイルをとっています。統計学でなくても、専門家や市民や患者がつながって一緒に学ぶという健康学習も、ソーシャルラーニングと呼べるでしょう。

ヘルスリテラシーを学び合うといっても、コンピュータスキルの問題などで、世界のすべての人が一律に向上をめざす

のは難しいことです。そのため、必ずしもそうでなくてもいいのです。クリスタキスが示したように、リテラシーの高い人とどこかでつながっていることが大切です。情報は単に与えられるものではなく、そこにはコミュニケーションが必要です。ソーシャルメディアはそのつながりをつくることが可能なのです。ヘルスリテラシーとインターネットの関わり

については、昨年11月に「健康を決める力—ヘルスリテラシーを身につける」というサイトをオープンさせましたので、ぜひご覧ください（<http://www.healthliteracy.jp>）（図4）。ブログのシステムを利用していますので、コメントもよろしくお願ひします。

図4 「健康を決める力」トップ画面



## ソーシャルメディアで学会や研究会が変わる

学会や研究会などで名刺を交換して「また情報がありましたらよろしくお願ひします」とお互いにあいさつしたりしますが、その後はどうでしょう。何もない場合も多く、メールで御礼を述べたり、資料を送ったとしてもそれっきりということが少なくありません。その後お互いが何をしているかは、機会がない限りわからないからです。その点、Twitterなどのソーシャルメディアで、普段から考えていることやしていること、例えば研究計画



や進行の具合，そこでの疑問点や成功ポイントをつぶやいておけばどうでしょう。読んだ論文のまとめやポイント，その批判や考えたこと，手法のメモなど，他の人の参考にもなるのではないのでしょうか。教員なら講義の内容や工夫などもあります。Twitter で知り合っ  
て，また学会などの機会に会う約束をするのはどうでしょう。

学会会場も，海外の学会では Wi-Fi（無線 LAN）がほぼ必ず用意されています。そこでパソコンを持ち歩き，発表を聞きながらツイートする人が多くいます（昨年  
の第 36 回日本看護研究学会学術集会では，iPhone でツイートしました）。学会の事務局や関係者が行なう場合もあります。学会のアカウントが  
つくられますし，「ハッシュタグ（hashtag）」という「#」で始まるキーワードも  
あります。例えば，日本看護科学学会であれば，略称は JANS（Japan Academy of Nursing Science）なので，「#jans」というものをつくり  
ます。そしてツイートの最後に，それを付けておくのです。検索（ハッシュタグをクリック）すれば，それが付いたさまざまな人のツイートを  
表示でき，チャットと同じようなことができます。どの発表が始まるから行こうとか，どの発表はこういうところがよかったとか，もっと  
こんなことが知りたかったとか，そういったことを書けるわけです。質問や疑問点を書いておけば，発表者から返事が来るかもしれませ  
んし，それを皆で共有できます。ちなみに他に実際に使われている国内の看護関連のタグには，「#kango」「#nursejp」「#phnjp」「#iryou」  
「#kaigo」「#kenko」「#gan」などがあります。海外のものはもっとたくさんあります。

なお私は，日本看護科学学会で将来構想委員会のメンバーになっているので，学術コミュニティづくり，研究ネットワークの推進に  
ソーシャルメディアを活用することを提案しています。また委員会での議論についてもツイートしています。ご意見をメールでもツイ  
ートでもお願いします。

## ソーシャルメディアで対象者の生活を中心とした研究へ

看護学の研究では，対象の健康や病気への対応の様子を記述したり，アセスメントしたりすることが必要です。そのとき，心理や行動，社会的状況は本人に聞く方法が最も一般的です。自記式質問紙やインタビューでは時間に制約がありますし，聞けることにも限界があります。質問に対する回答ですし，初対面の相手には話すのが苦手な人も多く，正確な状況を語ることはなかなか難しいものです。

ところがソーシャルメディアには，普段のごく日常的な様子が，本人の飾らない言葉で語られていることが多くあります。患者や家族の Twitter アカウントもたくさんあります。これらは病名や「患者」「治療」「闘病」などのキーワードで検索が可能です。保健医療関係者には面と向かっては言えないことでも，日々感じた自分の健康状態やライフスタイルや行動，医療者に対する思いなどについて記述されています。それを研究対象にしない手はありません。

これまでの調査を振り返っても，100 人いれば 100 人異なるのが人間です。従来の方法

では、1000人ぐらいに長いインタビューを何回も行なわないと、人間の実に多様で複雑な心理や行動はなかなか解明できるものではありません。ところが、そのようなデータが公開されていて誰でも手に入れられる可能性があるわけです。実際に、患者の細かな毎日のデータを蓄積してそれを分析し、そこから発見して、患者さんに新たな医療を提供しようという循環をつくる取り組みとして、先に紹介した「Health2.0」(<http://www.health2con.com/>)があります。これまで医療者は、点でしか関わっていませんでしたが、その点と点の間に何が起きているのかがわかり、そこからまた新しいケアが生まれる可能性があるのです。

研究室では、以前からソーシャルメディアを利用した研究を、卒業論文を含めて行なっています(研究室のサイト:<http://www.nursessoul.info/nakayama/>)。卒論生にはいつも、自分が関心のある楽しいと思う研究をきなさい、研究が好きになることが大事ですと言っています。不思議と(少し誘導はしていますが、先輩の影響か)、対象のことがよく見えるためか、ソーシャルメディアを題材にするようになります。

今年度の卒論では、いろいろな意味で興味深いものがありました。なかでも医療報道に関するテーマのもので特徴的な点がいくつかありました。昨年9月に明るみに出た帝京大学病院での院内感染事件について、新聞報道とTwitter上のツイートを比較したところ、後者は、前者のニュースを含んでいる上に、さらに多くの内容が含まれていました。それらは、マスコミや警察への批判でもありますが、何よりも患者や近隣の住民の声、そして多くの医療者の声です。患者や市民が専門家の解説を求めている場面も多く、Twitter上ではたくさんの医師が発言していました。ところが、感染管理に大きく関わっている看護師らしき人の発言はごくわずかでした。患者に最も近いところでそのニーズを把握する場は病院だけではないはず。対象はいろいろなところで情報を求めています。

メディアでは、看護師が発言しないと、看護師はいないのと同然になります。メディアにおける議題設定効果(agenda setting effect)はよく知られていて、人々は多く話題に上がったことほど重要なことと捉える傾向があります。看護師が多く発言することこそが、患者中心の視点の重要性をメディアにアピールすることになります。沈黙していると、現在の医療や看護はいまのままでよい、ということにもとられかねません。まさに著書にもある『沈黙から発言へ』(ブレッシュ&ゴードン, 2002)です。アイデアを変えるためにも現場からの声が必要です。

「Nursing Ideas」(<http://nursingideas.ca/>)というサイトがあります。ここはまさにソーシャルメディアを用いて、看護学生や看護師の新しい研究やイノベーション、リーダーシップのアイデアを共有しようというものです。こんな場を皆さんも欲しいと思いませんか。ソーシャルメディアをぜひ研究や仕事に使ってみましょう。

## 文献

ブレッシュ, B.&ゴードン, S./早野真佐子訳(2002). 沈黙から発言へ—ナースが知って

いること，公衆に伝えるべきこと．日本看護協会出版会．

クリスタキス，N.A.&ファウラー，J.H. (2010)．つながり—社会的ネットワークの驚くべき力．講談社．

Fox, S.&Jones, S. : The social life of health information. Pew Internet & American Life Project.

Fraser, R., Social media : An innovative way to share nursing ideas.

[http://www.reflectionsonnursingleadership.com/pages/vol36\\_1\\_fraser.aspx](http://www.reflectionsonnursingleadership.com/pages/vol36_1_fraser.aspx)

In the loop ITmedia オルタナティブ・ブログ :

<http://blogs.itmedia.co.jp/saito/2010/12/mixi-twitter-fa.html> mixi, Twitter, Facebook

2010年11月最新ニールセン調査—Twitter, ついに国内ネット人口の20%超え 2010年12月24日アクセス

ネットレイティングス株式会社．ソーシャルメディアの現状とバズ分析．

[http://csp.netratings.co.jp/nnr/PDF/OnlineReport\\_vol02\\_JP.pdf](http://csp.netratings.co.jp/nnr/PDF/OnlineReport_vol02_JP.pdf) 2010年12月24日アクセス

なかやまかずひろ●聖路加看護大学

〒104—0044 東京都中央区明石町 10—1

Twitter <http://twitter.com/nakayamakazhiro>

メール [nakayama@slcn.ac.jp](mailto:nakayama@slcn.ac.jp)

研究室 <http://www.nursessoul.info/nakayama/>

健康を決める力 <http://www.healthliteracy.jp>

□ナースに役立つ種類のサイトとは?—Nurse's SOUL <http://nursessoul.info/>

表 Twitter のアカウントをもつ看護関連の団体・組織などの例

団体・組織 American Nurse Association, Sigma Theta Tau International, American Association of Critical-Care Nurses, American Academy of Nurse Practitioners, Oncology Nursing Society, American College of Nurse-Midwives, American Academy of Ambulatory Care Nursing, Academy of Medical-Surgical Nurse, Interdisciplinary Nursing Quality Research Initiative, Association of Women's Health, Obstetric and Neonatal Nurses, Emergency Nurses Association American Medical Association, American Cancer Society American Red Cross, United Nations, UNICEF, 日本精神科看護技術協会

病院 Mayo Clinic, Johns Hopkins Medicine, University of Texas M.D. Anderson Cancer Center 他多数, 日本でもあり

雑誌 American Journal of Nursing, Advances in Nursing Science, Journal of Clinical Nursing, Nurse Researcher, Pediatric Nursing, American Journal for Nurse Practitioners, Holistic Nursing Practice, Journal of Interprofessional Care, Journal of Nursing Education, American Nurse Today, Nursing Times, Future of Nursing, Nursing Standard, ADVANCE for Nurses, Scrubs Magazine, British Medical Journal, Lancet, New England Journal of Medicine, Cochrane Collaboration, Nature, 医学界新聞, 看護教育, など

大学 School of Nursing では Johns Hopkins, Kansas, Penn, UCLA, Duke, Arizona State など

Harvard medical school, 文教大学, 東京都市大学, 聖路加看護大学看護ネットなど

政府・行政, 研究機関 WHO, NIH, CDC, NCI, FDA, 米国厚生省 (HHS), 米国国立医学図書館 (NLM), 厚生労働省, 英国 NHS など